

研修だより

令和六年一月九日発行



佐渡地区特別支援教育研究協議会会長

佐渡市立加茂小学校

校長 安藤 博通

子どもたちをど真ん中に

日常の教育活動で瞬間的に反応や返答が求められることがある。例えば、友達とのトラブルで、特別支援学級に在籍する児童生徒の中には、「絶対自分は悪くない。」となってしまうことがよくあった。私たち教職員はとかく時間に迫られ当事者たちの言い分を十分に聞かない（聞き取れない）うちに、児童生徒に対応していることがあるのではなからうか。

私の経験の中でも印象に残るケースがある。ある学校で在籍一人の特別支援学級の社会科

を担当した。東北地方の学習で宮澤賢治の作品を取り上げ、資料にあった写真で使われていた「猫」の看板を実際に作ってみようということになった。本人はあまり乗り気ではなかったが、最後は私が「これを作ってみよう」と決めた。製作でも本人はあまりやる気がなく、洪々手伝うくらいで、私は時々「もっと作業を頑張れ」と激励した。看板自体はほとんど私が製作したため、かなり写真に近い看板が完成した。「立派な看板ができて良かったなあ」と声をかけたが、本人はあまり嬉しくない様子。聞けば「猫は嫌い」とのことであつた。

最初にもっと話を良く聞くべきであつたと後悔の念に駆られたが、作製してしまった物はどうすることもできず、猫の看板を学期末に生徒は嫌々持ち帰った。振り返ってみれば、こちらの勝手な思い上がりのせいで、生徒に嫌な思いをさせたように感じる。「児童生徒の気持ちに寄り添う教育が大事」と良く言われるが教育の本質である。どんな状況であろうとも、我々は子どもたちをど真ん中に置いた教育を目指さなくてはならない。

一 夏期研修会

「自立活動を取り入れた授業づくり」

講師

新潟県立教育センター

教育支援課教員支援班

指導主事

嶋見 真理子 様

夏期研修会に参加して

河原田小学校

黒川 真代子

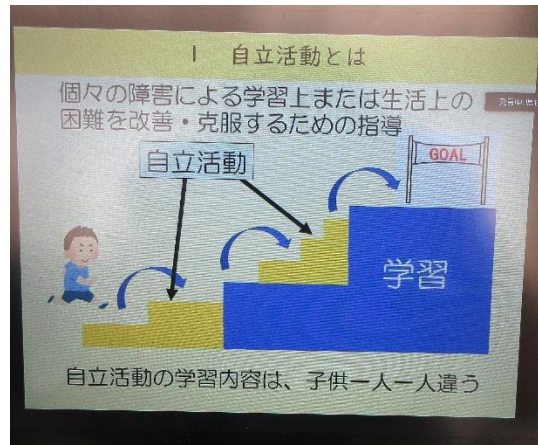
自立活動って何だろう」と、不安を抱えつつ、試行錯誤しながら授業を行っていた自分にとつて一筋の光が見えてきました。

今回の講演をお聴きして、自立活動とは、生きていくための困難を改善・克服するための指導であり、さらには学習上の困難を改善・克服するための指導であることを再認識することができました。具体的には、人間らしく食べたり、動いたり、話したりできるための指導であり、学習する上で下支えとなる知識や技能、意欲を育てるための大切な指導であると強く感じました。子どもたち一人一人の実態を観察し、課題を把握することが自立活動の具体的な指導に繋がることも学ぶことができました。

また、実践についての講義の中で、その子の課題を克服する上で、その子の強みや得意なことを利用することが大事である」と話されたことは今後の日々の授業づくりのヒントとなりました。さらに、SSTの学習では、型にはまることの良さを本人が気付くことができるように授業を組み立てることが大切である」とのお話を伺い、普段の学習の中で子どもたちの気付きや自分たちが学習したことへの自己評価を大切にしないといけないと気付かされました。

後半は、グループごとに自立活動の課題について話し合いました。私達のグループでは、個々の課題

が違った集団に対し、ねらいをどこにもっていくかについて、ICTをどんなふうを活用しているか、自立活動の指導案を作成する上でのポイントなどについて話題が出されました。各校の様々な取り組みや工夫について情報交換することができても参考になりました。このように学びの多い研修に参加でき、二学期からの手立てを得ることができました。ありがとうございました。



夏期研修会に参加して

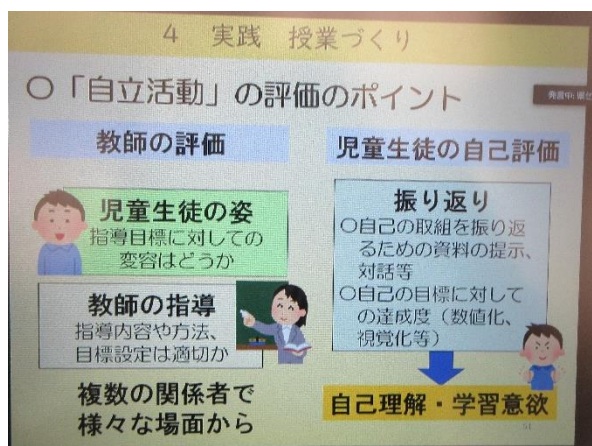
八幡小学校 風間 泰子

自立活動を行うにあたり、これまで私は、内容が児童の実態に本当に合っているのか、もつとよりよい授業のやり方があるのではないかと悩むことがありました。自立活動は個々の障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するための指導なので、学習内容は一人ひとり違います。講演では、授業づくりを考える際は、児童の実態を把握し、指導すべき課題の重要性などを踏まえて導出することが大切だと話されていました。

授業づくりの実践紹介では、様々な困難ごとに応じた自立活動が紹介されました。その中で、集団行動が難しい児童の自立活動で話型を使うことがあるが、児童自身が話型を使うことのよさを実感できることが大切だとお話されていたことが心に残りました。自立活動での学びが児童の自信につながり、もつと頑張ってみようという意欲につながるようにしていくことが大切であると改めて気付きました。

講演の後半には、自立活動をやっている悩んでいることをグループで話し合いました。実態が様々である児童が複数人いる場合の自立活動では、個に応じた課題を別々に行ったり、かわり合いをもたせるために全員で同じ課題に挑戦したりするなど、工夫している

ことを情報交換することができました。本研修会で学んだことをもとに、児童の得意なことやよさをいかし、もっている力を発揮できるような授業づくりを行っていきたいと思います。



二 実践報告会

【実践報告1】

「自立活動について 小学校」

小木小学校

風間 薫

教諭

赤泊小学校

堀田 直也

教諭

指導者

両津吉井小学校

教頭 金子

亘様

【実践報告2】

「自立活動について 中学校」

南佐渡中学校

霍間 寿子

教諭

指導者

県立佐渡特別支援学校

教頭 本間

学様

【実践報告3】

「特別支援教育における

小中連携の在り方について」

羽茂小学校

瀧川 代明

教諭

風間先生の実践報告



自立活動 小学校の実践発表について

行谷小学校 鼻崎 恵子

今年度の実践報告会に参加し、いろいろな学校で取り組んでおられる自立活動について知ることができました。

小木小学校の風間薫先生の発表は、「ルール」に関する実践例の紹介でした。その中で自学級でも実践してみたいと思った活動は、カードゲームでカードが取れなくても「まあ、いいか」の気持ちでポイントがもらえるという実践でした。このルールは勝ち負けにこだわったり、失敗するのを嫌がったりして活動になかなか参加できない児童にとっては活動への参加を促すのにもってこいのルールだと感じました。

また、赤泊小学校の堀田直也先生の発表は、「集中して」と「基本の動き」に関する実践例の紹介でした。「基本の動き」では、実際に会場でやって見せてくださいました。スモールステップで行い、徐々にレベルを上げていくことで確実に動きを身に付けられていました。改めてスモールステップで行うことの大切さを感じた実践でした。

そして、グループごとの自立活動の紹介では、交流学級と一緒に活動していくために行うものや、まだうまくできない指先を使うものなどがありました。

最後に、両津吉井小学校教頭の金子亘先生からは、お二人の実践のキーワードを自学級の児童

の実態に合わせて自校化していくようにのご指導がありました。今回の報告会で学んだことを児童に生かしていけるようにけるように、授業づくりに励みたいと思います。

堀田先生の実践報告



ご指導 金子 亘 様より



自立活動 中学校の実践発表

～自立を目指す実践について～

畑野中学校 松田 瑞恵

今回の実践報告会では、「自立活動について」改めて考えを深めることができました。

ご指導では、自立活動(個々の目標)の設定について、事態把握、保護者の希望、本人の困り感の把握、医療機関との連携を教育支援計画に明記することが大切であること。自立活動目標設定では、日頃の学習や生活の様子から、子どもがどんなことに、つまり「困り感」を抱いているかを把握することが大切であること。

霍間先生の実践報告



ご指導 本間 学 様より



また、心身の調和的発達の基盤を培うこと、主体的に改善、克服するために必要な知識、技能・態度及び、習慣を養うことが大切であると話されています。

霍間先生の実践の良さについては、複数の関係者で実態把握を多面的に、多角的に行っていること。実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れが明確であること。

(①実態把握②背景にある要因③指導目標の設定④指導内容の設定⑤指導場面・指導方法の設定等をしつかりおさえること。)

・PDCAサイクルで、指導の改善を図っていることなどが揚げられました。

後半では、各グループで自立活動の実践や困っている事について話し合われました。

集団での自立活動の指導は難しいので、教師の個々に対する支援の設定を、しつかり行うことが必要だと思いました。

今回の素晴らしい実践と、ご指導を今後の指導に生かしたいと思いました。ありがとうございます。

いました。

特別支援教育における小中連携について

赤泊中学校 度會 きぬ

瀧川先生の実践報告を拝聴して、児童生徒の将来を見通した効果的な小中特支連携について、多くの気付きがありました。ともすると「コロナ禍で例年通りにできないから…」と思考停止してしまいがちですが、そのような時こそ担当者同士が学校の枠を越えて知恵を出し合うことで、よりレジリエントな連携体制が整います。瀧川先生からの御提案「異動などで担当者が変わっても、児童生徒の支援をスムーズに行うことができるように、各中学校区もしくは佐渡市全体で小中連携のスケジュールや内容がある程度共有したら…」は大変有用で、各学校で Teams に入力したスケジュールを活用すれば、実現可能ではないでしょうか。

また、協議会では小中連携について様々な意見が出されました。「特別支援の進路説明会を佐渡市全体で行いたい」、「児童生徒の御家族が特別支援学校についてどのような印象を持っているか、が本人の指導を行うときにとっても重要である」といった声上がる中、印象に残ったのは「特別支援学校のセンター的役割を生かし、各学校の進路指導などに関わっていただく」というアイデアでした。児童生徒の特性と希望に合わせた進路指導のために、特別支援学校の

知識、経験、情報を定期的に共有できたら素晴らしいと感じました。

本報告会での学びを今後の指導に生かし、児童生徒がより生き生きと活動できる未来に繋がりたいと思います。

小中連携についての協議や情報交換



瀧川先生の実践報告



編集後記

今年度は、実践報告会を南佐渡中学校で実施しました。四名の先生方から実践報告をしていただき、協議や情報交換を実施し、小学校と中学校の自立活動についてのご指導をいただきました。

原稿を執筆してくださった先生方には、改めて感謝申し上げます。今後とも当研究協議会事業につきまして、ご理解ご協力いただけますようお願いいたします。

(事務局 森)